2019
9
No. 682

國學院大學學報

国学院大学
令和元年９月20日㈮　定期号（毎月20日発行）１部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

「伊豫の國」
しづかなる　いこひなりけり。
山岸に、石を撫でつゝ、
時經つ　と思ふ
（「春のことぶれ」）
釈　迢空

祭　儀　■ **月次祭**　10月１日（火）　午前10時　神殿

2020年東京五輪・パラリンピックへ
挑戦する院友２人

来年に開催が迫る２０２０年東京五輪・パラリンピック。国内では、スポーツ熱が高まるとともに、障がい者スポーツへの理解、関心も広がっている。外国人観光客の増加に伴い、インバウンド（訪日外国人客）関連のサービスやビジネスも盛況だ。今号では、ビジネスとスポーツそれぞれの分野で、東京五輪・パラリンピック、さらにその先を見据えて挑戦する院友２人を紹介する。

ビジネス界からは、本学のお膝元である渋谷を拠点に起業して３年目のジェイノベーションズ代表、大森峻太さん（平25卒・121期法）＝東京都渋谷区在住。大森さんは、外国人旅行者向けに日本人ボランティアガイドをマッチングするサービスや渋谷区観光協会オフィシャルツアーをはじめとする有料ツアーの企画、催行を手がけるほか、東京都観光まちづくりアドバイザーとしても活動している。

スポーツ界からは、東京パラリンピックの陸上中・長距離競技でメダル獲得が期待される視覚障がい選手をガイドランナー（伴走者）兼指導者としてボランティアでサポートする星野和昭さん（平16卒・112期中文）＝群馬県伊勢崎市在住。星野さんは本学陸上競技部ＯＢで、元上武大学駅伝部コーチとして同大を箱根駅伝の常連校に育て上げる一翼を担った経歴を持ち、現在は仕事の傍ら、急峻な山岳地帯を登り下りしてタイムを競うスカイランニングの現役選手でもある。

活躍の場は異なる大森さんと星野さんだが、今の日本社会の抱える課題への鋭いまなざしは共通している。【４・５面に関連記事】

国学院久我山高校野球部
28年ぶり甲子園で初の校歌

国学院大学久我山高等学校野球部が、７月に行われた第１０１回全国高等学校野球選手権大会西東京大会で優勝し、28年ぶりに甲子園出場を決めた。

大会３日目（８月８日）に行われた１回戦、前橋育英（群馬）との「関東対決」では、国学院久我山が７―５で前橋育英を下し、春夏通じて甲子園初勝利を飾った。

優勝経験のある前橋育英に序盤に２点を奪われると、三回に２点を挙げ同点に追いつくなど点を取り合う展開。３―５の七回表に先発のエース高下耀介選手（３年）の決勝適時打など５長短打を集めて３点を挙げ逆転し、７―５で逃げ切った。

13日に行われた２回戦では、敦賀気比（福井）と対戦し、序盤から強力打線の勢いを止められず３―19で敗れた。

産経新聞社提供

御礼

国学院大学久我山高等学校野球部の第１０１回全国高等学校野球選手権大会出場にあたり、在校生ご父母、卒業生、地域住民の皆様をはじめ多方面の方々から多くのご支援、ご声援をたまわりました。重ねて深甚の謝意を表します。

学校法人国学院大学

みはるかすもの

富山市八尾（やつお）町では、毎年９月１日から３日まで「おわら風の盆」が行われる。編み笠を目深にかぶった踊り手が、三味線や胡弓（こきゅう）の音色とおわら節の唄に合わせた優雅な舞いに、多くの観光客らが酔いしれる▼「風の盆」が行われる９月１日ごろは二百十日に当たる。台風に悩まされる時期で、昔から風の神を鎮め、収穫前の稲が風の被害に遭わないようにとの豊作への願いを踊りに込めてきた▼古くから二百十日や二百二十日は八朔（旧暦８月１日）とともに「農家の三大厄日」といわれる。清少納言は『枕草子』で「野分のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ」（百八十八段）と、台風による強風に見舞われた翌日はしみじみとした趣があるというが、現代はそうはいかない▼今年も時を違わず、佐賀県を中心とする九州地方には大雨が、そして関東地方には台風15号が直撃。特に千葉県内では長引く停電の影響が深刻だ。一刻も早い復旧を祈りたい▼この夏は連日の猛暑の中、甲子園での国学院久我山野球部の活躍に胸を躍らせた読者が多かったのではないか。全員野球を掲げるチームらしく、持ち味の集中打で逆転して勝ち取った１勝と、聖地に初めて流れた勝利の校歌は歴史に新たな１ページを刻んだ▼大学スポーツも各競技で秋の大会やリーグ戦が佳境に入る。学生たちの熱戦と、校歌を高らかに歌い勝利を称える機会が多く生まれることを期待したい。

主な内容　**２面**／宮家伝来の新収蔵品を初公開　**３面**／国立歴史民俗博物館と包括連携協定締結
４・５面／特集 2020年東京五輪・パラリンピックへ―院友たちの挑戦―　**６面**／インフォダイジェスト

最終面から K:DNA　**Ⅰ面**／陸上競技部・長距離ブロック男子「大学三大駅伝」へ勝ちにいく　**Ⅱ面**／K-SPRITS 蹴球部 10年ぶりの1部優勝へ「チームに団結力」

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882–2022

本学と宮家との縁を説明する高野裕基助教

宮家伝来の新収蔵品を初公開
―国学院大学博物館

学校法人国学院大学と縁の深い有栖川宮・高松宮両宮家が受け継いでこられた貴重な品々のうち、国学院大学博物館が昨年新たに収蔵した名品を紹介する企画展「有栖川宮家・高松宮家ゆかりの新収蔵品」が8月31日、渋谷キャンパスの同博物館企画展示室で開幕した。10月27日まで。

本法人と同博物館では、明治15（1882）年の皇典講究所創立から縁の深い両宮家ゆかりの品々を有栖川宮家の祭祀を継承された高松宮宣仁親王妃喜久子殿下のご厚意により数多く収蔵している。今回の企画展では、本法人と両宮家との関わりを紹介するとともに、新収蔵の品々を公開する。貞明皇后ご遺品の宝石箪笥（たんす）や高松宮妃喜久子殿下のご婚礼調度などが並ぶほか、宮中の饗宴（きょうえん）で記念品として配られた意匠を凝らしたボンボニエール（菓子入れ）など約40点が公開されている。

企画展に関連し、長佐古美奈子・学習院大学史料館学芸員と高野裕基・本学研究開発推進機構助教によるミュージアムトーク「国学院大学×近代皇室文化」が9月7日、同博物館ホールで行われた。高野助教が本学と宮家の縁について説明した後、近代皇室や華族の歴史・文化研究が専門の長佐古氏が、明治維新以降の皇室における洋風文化の変遷について解説。長佐古氏は「ボンボニエール」を「掌（てのひら）の上の小さな外交官」と呼び、その小さいながらも精緻な意匠の見どころなどを紹介した。

貞明皇后ご遺品の宝石箪笥

岩下客員教授と藤澤教授 軽妙トークで浮世絵解説

国学院大学博物館が新たに収蔵した浮世絵を初公開する企画展「浮世絵ガールズ・コレクション―江戸の美少女・明治のおきゃん―」の関連イベントとして、講演会「女性美と粋―江戸・明治の美人に学ぶ」が7月27日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催された**Ⅱ写真**。

講師を務める本学客員教授で作家の岩下尚史さんと浮世絵研究の第一人者である藤澤紫・文学部教授の2人が和装で登壇し、満員の聴衆を前に藤澤教授が浮世絵を楽しむための基礎知識や浮世絵美人画の系譜などを紹介。さらに江戸末期の人気絵師・歌川国芳、明治を代表する月岡芳年や豊原国周らの浮世絵について、「幕末の美人画にみる魅力的なしぐさ」「明治の美人画に見る暮らしと装い」などをテーマに、2人による軽妙なトークが繰り広げられた。

岩下さんは「現代は小顔が美人とされるが、江戸末期は顔は大きくても撫（な）で肩に見せるというのが一つの美の形だった」と、当時の美意識が感じられる浮世絵の魅力を解説。また着物の柄・しぐさから察する美人の身分、美女とともに画中に描かれた風景や椅子・鏡などの工芸品に注目することで見えてくる時代背景まで、2人がユーモアを交えて読み解き、会場から笑いを誘っていた。最後は「今でいうと浮世絵は絵画であると同時に、情報誌や広告、メディア文化の役割を果たした」と藤澤教授が締めくくった。

法人役員、大学執行部らがリスクマネジメント研修

教育機関などで不祥事が頻出する中、学校法人国学院大学では7月24日と8月1日、法人役員、傘下校執行部、大学執行部などを対象にリスクマネジメント研修を行った。同研修は今回が初めての試み。

研修には、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ約40人が参加。グループワークを交えて3時間にわたり、危機管理と緊急時の広報対応などについて外部講師から説明を受けた。

札幌、滝川で「学び」のイベント 国学院スタディフェスタ

大学が持つ学術資産を切り口に、多彩な視点から子どもたちの知的好奇心を育もうと国学院スタディフェスタが8月3、4日、北海道で開催された。

本学と北海道短期大学部が主催した同イベントは今回で3回目。札幌市のサッポロファクトリー・アトリウムでは、たまプラーザキャンパスで採れたハチミツと北海道の牛乳にレモン果汁を混ぜたラッシー作りなど3つのワークショップを、滝川市の北海道短期大学部キャンパスでは、いろいろな火起こし機を使うアウトドア体験など8つのワークショップを人間開発学部と短大の教員や学生たちが用意し、2会場を合わせて約1400人の子どもたちでにぎわった。

訃報　東名誉教授

東千尋名誉教授が7月29日に逝去。84歳。通夜祭は8月3日、葬場祭は同4日にセレモア坂戸駅前会館（埼玉県坂戸市）で執り行われた。

東氏は昭和10年生まれ。34年国学院大学文学部卒業、39年東京都立大学大学院人文科学研究科単位取得退学。34年国学院大学文学部副手、36年助手、40年専任講師、44年助教授、52年教授。平成17年定年退職、名誉教授。専門はギリシャ哲学。

訃報　弘田名誉教授

弘田嘉男名誉教授が8月27日に逝去。104歳。葬儀は同31日にさがみ典礼 やすらぎホール埼大通り（さいたま市）で執り行われた。

弘田氏は大正4年生まれ。昭和13年東京帝国大学経済学部卒業。三菱経済研究所などを経て40年国学院大学政経学部教授。61年定年退職、名誉教授。在職中、経済学部第二部長、図書館長などを歴任した。専門は、国際経済。

平成28年には弘田氏の厚志を受け、家計が困窮している地方出身学生に対した「弘田ふるさと奨学金」が設けられた。

たまプラーザキャンパス 1号館外装工事が終了

たまプラーザキャンパスでは、昨秋から行われていた１号館の外装や外構の工事が終わり７月末、新たな装いがお披露目された。

１号館は木材を外観に施した新たなキャンパスの顔として生まれ変わり、正門付近の垣根も撤去された。１号館２階と体育館棟屋上テラスをつなぐスロープが整備され開放的な空間となった。

国学院雑誌懸賞論文 入選に3人

平成30年度の国学院雑誌学生懸賞論文の入選論文が決定した。今回は、第１部門（本学文・神道文化学部、別科在籍者対象）で入選に２人、第２部門（本学大学院文学研究科、専攻科在籍者対象）で入選に１人が選ばれた。佳作は該当者がなかった。表彰式は、７月10日に文学部長室で行われた。受賞者は以下の通り（敬称略、所属は応募当時）。

第１部門＝◆入選▼羽鳥佑亮（日文２）▼竹内百合香（史４）

第２部門＝◆入選▼張哲（博後文２）

選考の経緯は、同誌７月号に掲載されている。

令和初の「萬葉の花の会」 223人が梅の歌学ぶ

万葉集を通して自然や文化に親しむ「萬葉の花の会」の講演会が９月６日、たまプラーザキャンパスで開催され、223人が聴講した**＝写真**。

同会は、本学職員らが同キャンパスに植栽した散策コース「万葉の小径」を開設したことに端を発する。年１回開催されており、今年で27回目を迎えた。

万葉集は、元号「令和」の出典として注目を集めている。令和になって初開催となった今回は、同会会長を務める辰巳正明・本学名誉教授ら研究者４人が登壇。令和の典拠となった歌が詠まれたとされる「梅花の宴」にちなんで、万葉集に登場する梅の歌を解説した。

講演題目は、奈良大学の上野誠教授（平２修・98期博後文ほか）が「『令和』と梅花宴序―大宰府文学圏―」、進化生物学研究所の湯浅浩史理事長兼所長が「『萬葉集』の梅」、本学の大石泰夫教授が「万葉の花―梅と桜と―」、辰巳名誉教授が「『令和』の時代を開いた大伴旅人―『梅花の歌三十二首』を読み解く―」。

聴講者は、昼食休憩で万葉集に登場する食材をふんだんに使った弁当を楽しんだ後、７月末にスロープなどの整備が終わり、移動しやすくなったキャンパス内や万葉の小径を散策し、万葉集の世界観を堪能した。

国立歴史民俗博物館と包括連携協定締結

佐柳正三理事長（左）と国立歴史民俗博物館の久留島浩館長

学校法人国学院大学は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館と包括的な連携・協力に関する協定を締結し、７月22日に渋谷キャンパスで調印式が行われた。同協定は、両者の教育研究の活動の一層の充実を図るとともに、その成果の普及を促進することにより学術の発展と人材育成に寄与することを目的としている。

調印式には、国立歴史民俗博物館から久留島浩館長、西谷大副館長らが、本法人からは佐柳正三理事長、石川則夫理事（副学長、文学部長・教授）、笹生衛国学院大学博物館長（神道文化学部教授）らが出席。代表者が協定書に署名し、握手を交わした。

佐柳理事長は「今回の協定締結を機会に、学問の発展、教育の充実をさせるうえで人材の交流も含めて一層の協力をお願いしたい。今回の協定をうれしく思っている」と、久留島館長は「国立歴史民俗博物館は、歴史、民俗学、考古学を三本の柱としている。私たちと国学院大学の研究が一緒になれば大きな力になるのではないか」とそれぞれ挨拶した。

今回締結された協定に基づき、具体的な交流が進められることになる。

学問ノ道 第19回

実業界の元老・和田豊治と国学院 神殿建立に寄与

本学渋谷キャンパスの神殿は、天照皇大御神を主神として天神地祇八百万神を鎮祭している。本学の鎮守である神殿の建立には、本学の経営母体であった皇典講究所の理事を務めた和田豊治が寄与している。

和田豊治〔文久元年―大正13年〕は豊前中津藩（大分県）出身の実業家で、同郷の福沢諭吉の慶応義塾に学び、明治17年の卒業後はサンフランシスコの甲斐商店に就職、24年に帰国し、日本郵船、三井銀行を経て鐘ケ淵紡績会社に出向して支配人となった。そこで欧州の先進技術を導入して同社の経営を立て直し、その功績により44年に藍綬褒章を受けた。大正期には紡績業にとどまらず種々の事業に関与して東京商業会議所特別議員や経済調査会委員を歴任し、実業界の元老として著名となった。

和田豊治

和田が実業界の元老として活躍した大正期、本学は大学令の公布に伴い、大正９年４月15日付で名実ともに大学となった。そこで皇典講究所長の一木喜徳郎を中心として将来に向けた学部・研究施設の充実と飯田町（現・飯田橋）からの全学移転の検討がなされ、その早期解決を和田の手腕に期待して、10年２月25日に専務理事桑原芳樹が和田のもとを訪ねて理事就任を要請し快諾を得た。和田は一木・桑原とともに校地校舎を売却する段取りをつけるとともに、氷川裏御料地の払い下げについても交渉し、12年に本学の渋谷移転が実現された。

和田は皇典講究所・国学院大学の創立以来、校地に神殿がないことを遺憾とし、校庭に学神を鎮祭する神殿建立を希望して、その費用１万５千円を指定寄付した。しかしながら、渋谷移転直後の12年９月１日に関東大震災が発生し、校舎復旧のため神殿着工は大幅に遅れ、和田は神殿の鎮座を目にすることなく13年３月４日に62歳で没した。

創建当時の神殿

神殿は昭和５年１月29日にようやく上棟祭を迎え、４月30日に神殿祭、鎮座祭を斎行するに至った。翌日の５月１日に御鎮座奉祝祭を斎行して以後、この日を神殿鎮座の日と定めて記念祭を大祭として斎行してきた。

現在、神殿では神殿鎮座記念祭をはじめ創立記念祭や歳旦祭、入学・卒業の奉告祭などが一年を通して斎行されている。そして来年令和２年に鎮座90年の節目を迎える。

研究開発推進機構助教　髙野裕基

2020年 東京五輪・パラリンピックへ
―― 院友たちの挑戦 ――

2020年東京五輪・パラリンピックにむかって、挑戦を続ける院友の大森峻太さんと星野和昭さん。
学生時代の留学経験も含め豊富な海外渡航歴を持つ大森さんは
国際交流にまつわる自らの活動やビジネスの先には「平和がある」、
自身も現役アスリートとして国際的に活躍する星野さんは支援する視覚障がい選手の金メダル獲得に向け、
「世界の舞台で選手の努力を実らせてあげたい」とそれぞれの熱い思いを語る。

インタビューの詳細は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。

ほしの・かずあき
昭和56年生まれ、38歳。群馬県片品村出身。平成12年、国学院大学に入学し、陸上競技部に所属。16年に卒業後、陸上自衛隊に入隊。その後、上武大学駅伝部コーチに就任し、同大を4年連続で箱根駅伝出場に導くなど箱根駅伝の常連校に育て上げる一翼を担った。現在は、仕事の傍ら日本スカイランニング協会理事も務める。スカイランニングでは2015（平成27）年のアジア選手権で3位、16（同28）年の世界選手権に日本代表として出場。スキーモ（山岳スキー）では19（同31）年世界選手権日本代表。

視覚障がい者陸上中・長距離競技ガイドランナー、スカイランナー
星野 和昭さん（平16卒・112期中文）

おおもり・しゅんた
平成元年生まれ、30歳。神奈川県茅ケ崎市出身。国学院大学在学中、3度の海外留学を経験。大学卒業後はカナダに拠点を移し、1年半かけて海外を巡る。帰国後の26年、外国人旅行者とボランティアガイドをマッチングするサービスを始める。28年、インバウンド関連事業を中心に手がける「ジェイノベーションズ」を設立して代表に就任。ボランティアガイド団体「Japan Local Buddy」の代表も務める。事業の傍ら、メディアなどで留学やインバウンドに関する情報を発信している。東京都観光まちづくりアドバイザー。

ジェイノベーションズ代表、Japan Local Buddy代表
大森 峻太さん（平25卒・121期法）

国際交流が世界に平和を

――外国人旅行者向けにボランティアガイドのマッチングサービスや有料ツアーなどを手がけるきっかけは

大森さん（以下、大森） 学生時代や大学卒業後に海外を旅して気づいたのは、「地域の魅力を知るには地元の人と交流すること」でした。東京五輪・パラリンピックを前に、たくさんの外国人旅行者が日本に来るようになり、彼らと地元の人をつなげれば、日本のことをもっと知ってもらえるのではないかと考えました。また、大学2年のときに国学院大学の学生を中心に立ち上げた国際交流サークルの活動では、日本人学生の多くが「英語を使う機会が少ない」と悩んでいました。一方、外国人旅行者の大半は日本語が話せません。そこで、外国人旅行者と英語を話したい日本人をマッチングするサービスをつくろうと考えました。

――活動や事業の広がりは

大森 マッチングサービスが軌道に乗るまでの時期に、「渋谷の街にいる外国人の手助けをしてみよう」と思いつきました。学生時代、渋谷駅前で友人と待ち合わせている、外国人旅行者からよく道を尋ねられた経験がきっかけです。国際交流サークルの仲間を誘い、「English Volunteer（英語ボランティア）」と手書きした紙を持って街頭に立ち始めたのが最初です。しばらくすると、地元の渋谷区など自治体から「インバウンド事業を一緒にできないか」と声をかけていただくようにもなりました。渋谷駅前のハチ公前広場にある「青ガエル観光案内所」の運営も、その一つです。ボランティアガイドの登録数や外国人旅行者からの依頼件数も増えるようになり、「ジェイノベーションズ」を起業し、ボランティアガイド団体「Japan Local Buddy」の代表にも就きました。

――通訳ガイドの魅力とは

大森 一つは世界を知ることができることです。世界を知ることは日本を知ることにつながります。また、世界中の人と出会えることです。ガイドの中には、日本でガイドをした外国人旅行者と仲良くなり、海外へ行った際にガイドをしてもらったり家に泊めてもらったりする人も少なくありません。世界中に友人の輪が広がるのは大きな魅力です。

――世界とつながる活動や事業から見えてくるものは

大森 世界は本当に多様だと感じるようになりました。文化も異なるし、自分では当たり前だと思っていたことが、当たり前ではないこととして日々、起こります。ですから、どんなことも受け入れられるようになりました。インバウンドがこれほど増えると、日本全体も変わらざるを得ないのではないでしょうか。

――学生時代の思い出は

大森 先ほどもお話しした国際交流サークルの活動です。最盛期には国学院大学の学生だけでも100人を超える規模になり、大学の国際交流課にも活動を応援していただきました。留学生と日本人学生が集まり、旅行やゲームなどのイベントを毎月のように行い、留学生の出身国の料理を食べ歩いたこともあります。

「自分たちが国際交流を活発にすれば、他の日本人学生も海外にもっと興味を持ってくれるはず」という思いでした。

――留学経験者はたくさんいる中、自らの経験を活動や事業に生かせたのは、なぜ

大森 「違い発見力」のようなものが影響しているかもしれません。例えば米国・ニューヨークで、私は自由の女神像の近くにあったシェアサイクルに関心を持ち、日本ではまだ珍しかった自転車を共有して利用するというシステムを調べてみました。多くの人は女神像に目を奪われ、関心を示さなかったでしょう。仮に関心を持ったとしても、調べるまでには至らなかったでしょう。一歩踏み込んで自分のものにしようとする姿勢が自分にはあるのだと思います。

渋谷駅前のハチ公前広場にある「青ガエル観光案内所」

――今後の夢は

大森 現在は関東と関西が活動と事業の中心ですが、日本中に拡大させることが目標です。海外を巡って世界中に友人ができたことで、世界中の出来事が「他人事」ではなく「自分事」になりました。海外でテロや災害などが起きたときには、誰かの顔が浮かぶようになったのです。日本の人と世界の人がもっとつながり、お互いが当事者意識を持てるようになれば、平和にもっと近づけると思っています。

視覚障がい選手を支える

――ガイドランナーを始めたきっかけは

星野さん（以下、星野） 体のケアをするために通っている前橋市の鍼灸マッサージ院の院長からの紹介で、全盲の唐澤剣也選手（群馬県立点字図書館所属）の東京パラリンピック出場へ向けた指導とガイドランナーを頼まれました。唐澤選手の競技上の障がいクラスは最も重い「T11」です。高い指導力と競技力が必要であり、誰にでも務まる役目ではないということは理解していました。一方で、私はスカイランニングの現役選手であり、仕事も持っていますから、時間をつくれるのかと不安でした。それでも、「ここで断って、唐澤選手の夢を断念させてはならない」「私のランナーとしての経験や実績、指導歴を見込んでもらったんだ」と考え、引き受けることにしました。東京パラリンピック開催まで、既に4年を切っているタイミングでした。

――全盲の選手を指導する工夫は

星野 指導者としては上武大学駅伝部コーチとして7年間の経験がありましたが、それは健常者に対する指導であり、全盲の唐澤選手には一切、通じません。それまでの指導方法が、いかに視覚に頼ったものであったかを思い知らされることになりました。そこで、視覚に頼らず、知覚で走りの技術を身につけてもらう方法を考えました。その一つが、唐澤選手に私の筋肉を触らせて、腕の振り方を再現できるようにしてあげることでした。

――唐澤選手をサポートし続ける原動力とは

星野 自分の性格を、人のために活動するのが好きなタイプだと分析しています。ボランティアでしていることが、自分の喜びに変わっていると実感できるのです。有償でコーチをしていたときに比べ、今の幸福度は比べものにならないくらい高いです。大会に同行して出場するために長期間仕事を休まなければならないケースもあります。時間が足りず、仕事をやめたいと思うときもあります。しかし、縁があって務めているガイドランナーをボランティアとして続けることは、私の宿命だと思うのです。

――学生時代の思い出は

星野 スポーツ推薦で入学しましたから、陸上漬けの学生生活でした。在学中、国学院大学は私が1年と3年のときに箱根駅伝に出場し、私は6区にエントリーされたのですが、発熱などで実際に走るチャンスには恵まれませんでした。この経験がなければ、卒業後も指導者や選手としての活動を粘り強く続けてくることはなかったと思っています。学生時代の悲運は、次の人生へ進むためのステップになりました。

――東京パラリンピックに向けた抱負を

星野 唐澤選手は初の国際大会となった昨年10月のアジアパラリンピック（インドネシア・ジャカルタ）で、T11クラス陸上男子5000㍍金メダル、同1500㍍銅メダルを獲得し、東京パラリンピックでのメダル獲得が期待されています。唐澤選手のその後の競技人生のためにも、続けてきた努力を実らせてあげなければなりません。唐澤選手が金メダルを狙える環境づくりはできています。日本代表になって、しっかりと金メダルを手にしてもらいたいです。

メダルで恩返しを

唐澤 剣也選手

2016年リオデジャネイロパラリンピックで、同じ視覚障がいの選手が活躍していることを知り、自分も挑戦してみたいと考えました。

星野和昭さんには申し訳ないのですが、指導とガイドランナーをボランティアという形でお願いしています。毎日、熱心に指導していただき、自分のことのように考えてもらっているのだと感じます。「自分で考えないと伸びない」という厳しいアドバイスも、優しさなのだと思います。走りでは、自分に欠けている積極性があり、隣から声をかけて私を引っ張ってくれます。

星野さんをはじめ、多くの方が私の夢の実現のために協力し、力を貸してくださっています。こうした方々の期待に応えるためにも、しっかりと結果を出し、メダルという形で恩返しをしたいです。

ひもを握り合い練習に励む星野和昭さん（左）と唐澤剣也選手＝前橋市内

からさわ・けんや
平成6年生まれ、25歳。群馬県渋川市（旧小野上村）出身。生まれたときから弱視で、小学4年で視力を失う。28年、同県立盲学校高等部卒。今年11月の世界パラ陸上競技選手権大会（アラブ首長国連邦・ドバイ）へ出場する。

インフォダイジェスト

… 在学生　… 保護者　… 卒業生　… 一般　… 受験生
内内容　日日にち　時時間　場場所　対対象　申申し込み　料料金　問問い合わせ

大学からのお知らせ

8～9月の災害で被災された方へ

内8月末の前線に伴う大雨と台風15号に伴う停電により災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変によって学業生活に支障をきたすおそれのある学生は保証人(保護者等)と相談の上、下記の大学各窓口までご相談ください。
対被害対象地域については本学ＨＰで確認してください。
問▶学生生活課
（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課
（☎045・904・7700）
▶大学院事務課
（☎03・5466・0142）

国学院大学法学会懸賞論文を募集

内法律学・政治学に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文には賞状が授与され副賞(最優秀賞:図書カード10万円分、優秀賞:同5万円分、佳作:同3万円分)が贈られます。
対本学法学部の在学生
申令和2年1月21日㈫15時までに、論文（Ａ4サイズ1ページあたり40字×30行の横書きで脚注を含め10～40枚。本文の前に目次を付ける）と800～1000字程度の要旨を2部ずつ、表紙と要旨（Excel形式）と原稿（Word形式）の2つのファイルを保存したＵＳＢメモリを、法学部資料室へ提出してください。
※政治専攻のスタディ・ペーパーで作成した論文は応募できません
問法学部資料室
（☎03・5466・0304）

国学院大学経済学会懸賞論文を募集

内経済学部各学科の各コース内容に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文には賞金（最優秀賞5万円、優秀賞3万円、佳作1万円）が贈られます。
対経済学部在学生の個人またはグループ（3人以内）
申12月2日㈪～6日㈮正午の期間に、論文(Ａ4サイズ1ページあたり1200字程度で10枚以上。600字以内の要旨を本文の前につけたもの)2部と経済学部ＨＰ(https://www.kokugakuin.ac.jp/event/128749)からダウンロードした受付票・個人情報利用承諾書、Word形式の論文を保存した記憶媒体(CD-R/RW・DVD-R/RW・ＵＳＢメモリのいずれか)を経済学部資料室へ提出してください。
問経済学部資料室
（☎03・5466・0342）

国学院雑誌学生懸賞論文の募集

内未発表の学術論文であれば題目は問いません（卒業論文も可）。優秀な論文には賞状と副賞（入選5万円、佳作3万円）を贈呈し、国学院雑誌への掲載を予定しています。
対▶**第一部門**＝本学文学部・神道文化学部・別科在籍者
▶**第二部門**＝本学大学院文学研究科・専攻科在籍者
申令和2年3月31日㈫までに、論文(400字詰め原稿用紙換算40～50枚で、800字程度の要旨を添付)の原稿とテキストデータを、文学部資料室国学院雑誌編集係へ提出してください。
問文学部資料室
（☎03・5466・4812）

博物館

料無料
時10時～18時(入館は17時30分まで)、9月30日㈪は休館

百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録記念 特集展示「王権と古墳－倭国統合の象徴－」

内本展では、単なる墓ではない巨大人工物－古墳－の姿を点検しながら、古墳の始まりと終わりや、葬祭と神祭との関わりに注目し、疑問を解決する糸口の幾つかを示していきます。
日10月27日㈰まで
※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

キャリアサポート

後期スタートガイダンス

内本格的に始まる就職活動に向けてどのような準備・対策を行えば良いのかや、書類・自己ＰＲ対策と業界・企業研究についてお伝えします。
日・時10月2日㈬3限か5限、3日㈭6限。4日㈮6限
※全4回は同じ内容になるため、いずれかの時間帯に出席を
対3年生

業界セミナー

内超大手優良企業の採用担当者をお招きし、業界と企業の説明会を行います。積極的に参加し、志望業界への理解を深めましょう。まだ志望先が決まっていない人は、企業のお話を聞いて興味・関心を広げましょう。
日・時10月7日㈪～12月13日㈮
月・火・木・金の5限と6限、水の3限と4限
対1～3年生

夏季インターンシップ事後研修

内インターンシップの経験を価値あるものにするには、今後の目標設定や取り組みに向けて行動に移す事が重要です。振り返りを行い課題を明確にし、今後の成長へつなげましょう。
日・時10月2日㈬4限～5限
対1～3年生
※詳細確認・申し込みはK-SMAPY IIより行って下さい

イベント

第45回日本文化を知る講座「大嘗祭の歴史」

内国学院大学研究開発推進機構主催で45回目を迎える本講座は、皇位継承儀礼として執り行われる「大嘗祭」について取り上げます。国学院大学が誇る教授陣がそれぞれ得意とする分野から「大嘗祭」を論じます。定員250人(先着順)、参加無料。
▶**第1講(13時10分～14時10分)**
「古代の大嘗祭と大嘗宮」講師：笹生衛・国学院大学博物館長／神道文化学部教授
▶**第2講(14時20分～15時20分)**
「近世の東アジアと大嘗祭の再興」講師：根岸茂夫・校史・学術資産研究センター長／文学部教授
▶**第3講(15時30分～16時30分)**
「大嘗祭とその時代」講師：武田秀章・研究開発推進機構長／神道文化学部教授
日10月12日㈯
時13時～16時30分
場渋谷キャンパス常磐松ホール
申10月5日㈯までに大学ホームページ内の申し込みフォームまたは、郵便番号・住所・氏名（フリガナ）・電話番号・「日本文化を知る講座」参加希望と明記の上、はがき（〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28国学院大学研究開発推進機構事務課）・ＦＡＸ（FAX03・5466・9237）で申し込む。
問研究開発推進機構事務課
（☎03・5466・0104）

本学が参加予定の進学相談会

内本学では、10月に埼玉県で開催される進学相談会に参加予定です。本学への進学をお考えの受験生、保護者の方はぜひご来場ください。
日10月17日㈭
時16時30分～18時
場川越東武ホテル
問入学課（☎03・5466・0141）

柔道部 相田選手に 文部科学大臣顕彰

スポーツ功労者顕彰などに係る文部科学大臣顕彰および表彰式が７月23日、都内のホテルで開催された。昨年度開催された各競技の世界選手権などで優秀な成績を収めた選手らに対して、文部科学大臣がその功績をたたえるもので、本学からは昨年10月に行われた世界ジュニア柔道選手権で３位入賞を果たした相田勇司選手（法２）**＝写真＝**が表彰された。

相田選手は表彰式後、「11月の講道館杯での優勝を目指して頑張っていきたい」と今後の抱負を語った。

団体･個人の成績

蹴球部＝東京都大学リーグ１部後期が８月25日から始まった。９月８日に第13節を終え、８勝４敗１分・勝ち点25で山梨学院大学に次ぐ２位につけた。第13節の帝京大学戦は後半14分、23分に矢野友尊選手（法３）が連続ゴールで２点をリード。終盤に１点を返されたが、46分に矢後佳也選手（法４）が追加点を決め３－２で逃げ切った。

ソフトテニス部＝全日本学生ソフトテニス大会が８月６～10日に盛岡市太田庭球場などで行われ、大学対抗戦で男子はベスト８、女子はベスト16だった。男子シングルスでは谷岡凌太朗選手（健体３）がベスト16。

強化部会主なスケジュール（9、10月）

硬式野球部＝東都大学野球秋季１部リーグ　対中央大①〔10／８（火）９：00・神宮球場〕、同②〔10／９（水）９：00・同〕、対東洋大①〔10／15（火）11：30・同〕、同②〔10／16（水）９：00・同〕、対亜細亜大①〔10／22（火）14：00・同〕、同②〔10／23（水）11：30・同〕

柔道部＝全日本学生柔道体重別選手権大会（男子38回、女子35回）〔９／28（土）～29（日）・秋田県立武道館〕、全日本学生柔道体重別団体優勝大会（男子21回 女子11回）〔10／19（土）～20（日）・ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）〕

陸上競技部＝第31回出雲全日本大学選抜駅伝競走〔10／14（月・祝）13：05・出雲大社正面鳥居前（島根県出雲市）～出雲ドーム前（同）〕

蹴球部＝東都大学サッカー１部リーグ戦　対大東文化大〔９／22（日）〕、対東京農業大〔９／29（日）〕、対明治学院大〔10／６（日）〕、対東京大〔10／13（日）〕※時間、場所は未定

卓球部＝第86回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部〔10／24（木）～27（日）・島津アリーナ京都（京都府立体育館、京都市）〕

ラグビーフットボール部＝関東大学ラグビー・リーグ戦グループ２部　対立正大〔９／22（日）11：00・国士舘大G〕、対朝鮮大〔10／５（土）11：00・東洋大G〕、対国士舘大〔10／13（日）11：00・国学院大G〕、対東洋大〔10／27（日）11：00・国士舘大G〕

KSPIRITS

10年ぶりの1部優勝へ「チームに団結力」

蹴球部

東京都大学サッカー連盟１部に所属する本学蹴球部が、今季リーグ戦で前期１位の好成績を収めた。現在は後期の戦いのまっただ中だが、ここ最近のシーズンではリーグ優勝に最も近づいたといえる。今季優勝すれば平成21年度以来、10年ぶりの１部リーグ優勝となり、このとき以来となる「関東大学リーグ昇格」も射程に入る。佐藤大介主将（ＤＦ・経４）**＝写真中央＝**は「これまでのチームでは想像できないような世界にたどり着いたという感じ。後輩たちに関東大学リーグという素晴らしい環境でプレーさせてやりたい」と悲願成就に意欲をみせる。

１部所属は本学を含めて10チーム。本学は前期９試合を６勝２敗１分（15得点、８失点）で終え、首位で折り返した。山本アマディン副将（ＦＷ・健体４）**＝同左＝**が「関東大学リーグ昇格という目標の中で、首位で折り返せたのはとてもいい出来だった」と振り返れば、比留間公祐副将（ＭＦ・経４）**＝同右＝**も「この４年間で首位は初めて。素直にうれしい」。

好調の要因となった一つが激しいポジション争いだ。「新入部員に即戦力が多く、上級生といえども死にものぐるいで臨まないとスタメンに入れない。練習に活気が生まれた」と佐藤主将。今季から定期的に始めた選手ミーティングも奏功した。山本副将は「全学年で構成するトップチームのミーティングで１、２年生も積極的に発言できる」と〝風通しの良さ〟を強調。比留間副将も「チームに団結力が生まれた」と手応えを感じている。

課題も見えてきた。後期の目標として、①チーム全体で20得点以上②上位チームからも着実な勝ち点の積み上げ―を主に掲げている。

４年生部員にとっては学生選手生活の集大成となる残りの試合。卒業後、プロの世界を目指す山本副将は「一日一日を無駄にできない。今から『見られている』ことを意識しながらプレーに臨んでいる」、同じく比留間副将も「目に見える結果を出し、次のステップへつなげたい」と語り、リーグ優勝とその先に見据える関東大学リーグ昇格をプロ入りに向けた自信にするつもりだ。

一方、佐藤主将は卒業後、保険会社に就職し、サッカー生活にはひと区切りつけるという。「４年間お世話になった監督や（サッカーを始めた）幼稚園児のころから試合のたびに応援に来てくれる両親への恩返しに、結果を出して成長した姿を見せたい」と誓った。

柔道部

東京学生新井選手3位

９月に秋田県で行われる全日本学生体重別選手権大会の予選となる東京学生柔道体重別選手権大会が８月17日、日本武道館（東京都千代田区）で行われ、本学柔道部からは男子の各階級に18人が出場した。

男子66kg級では、新井雄士選手（史２）**＝写真上＝**が、準々決勝で鈴木練選手（東海大）から一本勝ちを収めるなど順調に勝ち進んだ。準決勝では、延長の末、長尾崇文選手（日本体育大）に一本負けを喫し３位入賞が決まった。新井選手は「今日はのびのび試合ができた。全日本学生では

優勝を目指したい」と話した。

このほか、男子81kg級で長澤大雅選手（健体３）、常見昴世選手（法２）がベスト８。男子90kg級で斉本研アレクサンドル選手（健体１）がベスト16に入り、推薦枠で出場権を獲得している男子73kg級の島田隆志郎選手（健体４）とともに全国大会出場を決めた。

硬式野球部

東都開幕　白星スタート

東都大学野球秋季１部リーグが９月10日、開幕した。春季3位の本学硬式野球部は、平成22年秋以来の優勝を目指す。開幕カードは駒沢大学と対戦。１回戦では、二回表に２点を先行すると、四回表に４本の安打に四球、敵失なども絡み打者11人で７点を奪った。

先発の横山楓投手（健体４）は７回２失点と試合を作り、開幕戦を白星で飾った（９－２）。

翌日の２回戦は、初回から投手陣が打ち込まれ４－９で敗れた。勝ち点のかかる３回戦は四回表に２本の適時打で先制すると、１回戦に続き先発した横山投手が６回３安打無失点と好投。２番手・諸見里俊投手（経３）も３回を投げて１安打無失点と相手打線を抑え、２－０で勝利した。

K:DNA

2019 9

K:DNA——創立137年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

陸上競技部・長距離男子チーム

「大学三大駅伝」へ勝ちにいく

平成最後の箱根駅伝で総合７位、全日本大学駅伝で６位と国学院大学としての最高順位を記録した陸上競技部・長距離男子チーム。令和初の今季は出雲・全日本・箱根の「大学三大駅伝」に、初めて同一シーズン中に３つのレースに挑む。夏前に行われた各地の大会や記録会でも選手たちは好成績を挙げ、10月開幕の駅伝シーズンに弾みをつけた。チームを率いる前田康弘監督は「盤石な主力を並べて勝ちに行く。箱根をピークとし、前哨戦の出雲、全日本ではこれまでの最高順位の更新を目指す」と意欲をのぞかせる。

５月に関東インカレ２部ハーフマラソンで優勝を成し遂げた土方英和主将（健体４）は「ユニバーシアードの代表を取れなかったので満足できない」としながらも、メンバーが次々と自己記録を更新する現状には手応えを感じ、「調整は順調。主力も故障なく合宿に入り、故障者も復帰してくる。チームとしては非常に良い形」と話す。さらに「今季は勝負の年。『歴史を変える挑戦』をスローガンに掲げているので、より強い国学院を見せたい」と主将としての決意を語る。

１月の箱根駅伝で山上り（５区）の区間記録を塗り替えた浦野雄平選手（経営４）は今季、5000㍍、10000㍍ともに国学院大学記録を更新し、順調な仕上がりぶりを見せている。「ミスが許されないのが駅伝での自分の立ち位置。好走以外は全部失敗だと思っているので、結果を出さなければ。それぐらいの思いや責任を背負って走ることがエース像」と頼もしい。

ルーキーイヤーの箱根で１区を任された藤木宏太選手（神文２）は春先に故障を経験したが、既に練習に復帰した。「結果が出ないと楽しくない。結果が出ればつらい練習が報われる。結果が出なくても、それを次のレースの起爆剤に」とあくまで前向きに自身の走りと向き合っている。土方主将、浦野選手らの背中を追いながら三大駅伝に挑む２年生は、「先輩が余裕を持って走れるよう他校の選手と張り合いたい。浦野さん、土方さんらが卒業しても、結果を出し続けることでチームを牽引（けんいん）していきたい」と熱い思いも秘めている。

前田康弘監督

「箱根は別格」と言い続ける前田監督にも悩みはある。「理想的なのは出雲と全日本で若い選手の経験値を上げさせてから箱根というパターン。ただ、ラストイヤーの４年生は全て勝ちたいはず。育成と勝利のバランスが難しい」。そんな思いをにじませながらも、「東洋、青学、東海、駒沢の４強を脅かしたい。巡ってきたチャンスを物にできるかは我々の力量次第。一発当てるのではなく、今後につながる常連校を目指す」と締めくくった。

土方英和主将

浦野雄平選手

藤木宏太選手

速報　陸上競技部

全日本インカレ 土方選手が3位

第88回日本学生陸上競技対校選手権大会が９月12～15日、岐阜メモリアルセンター長良川競技場（岐阜市）で行われた。本学陸上競技部からは、男子10000㍍、男子5000㍍、男子800㍍に６選手が出場。男子10000㍍では、主将の土方英和選手が日本人トップとなる３位に、藤木宏太選手が４位に入った。

土方選手はレース終盤、残り１キロで３位集団から抜け出すと一気に後続を振り切り、28分47秒40でゴールテープを切った。藤木選手も４秒差の28分51秒70で続いた。

この他、男子5000㍍では浦野雄平選手が、13分58秒59で５位入賞、男子800㍍では予選を突破し決勝に進んだ佐々木亮介選手（神文３）が、１分53秒84で７位入賞をそれぞれ果たした。

未来につなぐ 学術資産研究ノート

月はやっぱり去年のとほりの月ぢゃ

本居宣長自筆稿本『古今集遠鏡』

天皇の命令によって編まれた初めての勅撰和歌集『古今和歌集』全20巻（10世紀初め成立）は、日本文化の規範を考えるとき正典ともいうべき作品であり、その影響力は計り知れない。ただし、その全文口語訳が生み出されるには、約900年のときを待たねばならなかった。

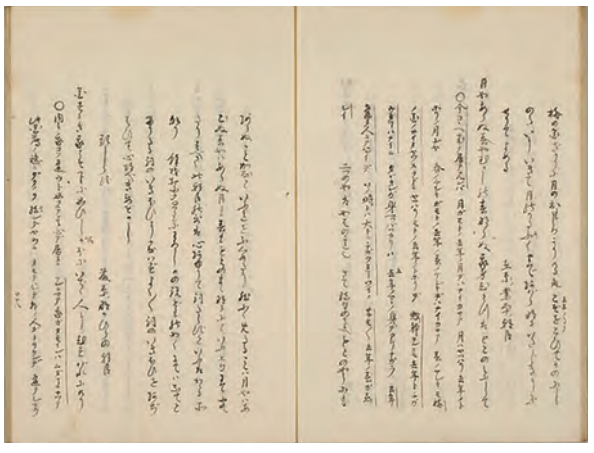
寛政５（1793）年頃にその原稿が出来上がったという『古今集遠鏡』は、国学四大人のひとり本居宣長[1730―1801]によって著された口語訳であり、本学図書館所蔵の１本はそのうちの巻14から16までをおさめる自筆稿本の５冊目にあたる。宣長は、在原業平の恋歌「月やあらぬ春やむかしの春ならぬ我身ひとつはもとのみにして」を次のように口語訳している。

「月はやっぱり去年のとほりの月ぢゃ〈略〉なんにも去年とちがうた事はないに ただおれが身一つばっかりは 去年のままの身でありながら 去年逢た人にあはれいで その時とは大きにちがうた事わいの さてもさても去年の春が恋しい」

「～ぢゃ」「おれ」「～わいの」など当時の話し言葉が見られるのが、なんとも面白い。『古今集』と現代との距離を縮めてくれる作品である。

荒木優也

（本学兼任講師・研究開発推進機構客員研究員）



国学院大学図書館所蔵（デジタルライブラリーで公開中）